

設立45周年、宇宙ビジネスの可能性に自信

23年2月期売上高11億円を目指す オガワ機工株

オーダーメイド型自動省力機器・搬送設備製造のオガワ機工株（久留米市宮ノ陣町、伊藤秀典社長）が今年5月に設立45周年を迎えた。コロナ禍の影響で受注先の見直し相次ぎ、昨年は厳しい決算となったが、今期から3カ年中期経営計画を策定。新たな自社一貫の生産体制と宇宙産業ビジネスの本格参入で経営成長戦略に弾みをつけようとする伊藤社長に今後の展開について聞いた。（取材／松岡泰成）

―設立45周年を振り返って。長と弟・伊藤慎二副社長との親
伊藤 当社は創業者の父（伊子・兄弟一対の経営体制が確立
 藤博介会長）が1969年、久留米市善導寺町に小川製作所
 留米市善導寺町に小川製作所
 （現小川コンベヤ株）九州出張所を開設し、76年5月に同社
 から出張所の資産と市場を買い取って独立。現地法人化したこ
 とに始まります。設立当時は従業員3人だったのが、善導寺の
 事務所と工場の新設、97年5月には宮ノ陣新産業団地内へ本社
 社屋・工場の新築移転などを経て成長し、現在はスタッフ約30人まで増えたことに感慨深い
 ものがあります。

私が経営に参画したのは98年ですから、それ以降、伊藤会
伊藤 そうです。入社前はコ
 ンベヤメーカーで3年間さまざ
 まな経験と知識を学ばせていた
 できました。そのノウハウを持
 ち帰って社内の組織体制に生か
 そうと。例えば、各部署間の情
 報共有や設計・図面工程など
 データ管理に基づく社内工程表
 の重要性を指摘し、今後それを
 どう効率の良いものに改善して
 いくのかを検証。必要な場合は
 積極的に取り入れました。約1

―技術開発グループとは何で
 対応する。当社は仕事を断ら
 ないのがモットーですから、そ
 うした挑戦し続ける姿勢を今日
 まで評価していただいたのでは
 と考えています。

―スタッフの内訳は。
伊藤 現在、設計課が6人、
 製造工事課の機械系が8人、電
 気系が2人の計16人体制で製
 造部門を回しています。また、
 購買が3人、営業2人、総務3
 人となっています。また、昨年
 4月に新設した「技術開発グ
 ループ」のスタッフが1人所属
 しています。



いとう ひでのり
伊藤 秀典 社長

久留米市出身、1972年6月16日生まれ、49歳。創業者伊藤博介会長の長男。久留米高専機械工学科～豊橋技術科学大学エネルギー工学課程卒。卒業後オクラ輸送機株に勤務。1998年5月にオガワ機工株に入社し、2015年5月から社長

―経営環境について、コロナ
 禍の影響はありましたか。
伊藤 昨年度は非常に厳し
 かったですね。それまではプリ
 チストンさんを始め、24社の
 主要取引先と132社の納品先
 を有するなど年々順調に推移し
 ていましたが、コロナの影響で
 多くの企業が事業計画の見直し
 を迫られ、それはプリ
 チストンさんも例外で
 はありませ
 んでした。
 事業見直し
 の連絡は事
 前にいた
 いていま
 したが、過
 去数年、総
 売上高の約5

0年前に導入した3次元CAD
 や2019年から随時、一人1
 台タブレット（アイパッド）配
 布もその一環で、こうした取り
 組みは当時業界でも早かったと
 思います。
 導入当初は先端技術にスタッ
 フも戸惑っていましたが、今で
 は環境改善に新たな創意工夫を
 施そうとする姿勢が見られ、頼
 もしく思っています。

―役員役割分担について。
伊藤 会長は創業当時からお
 世話になってる（株）リョーユー
 パンさまとの窓口を引き続き
 担ってほしい、私は多大なご
 力をいただいた（株）プリチスト
 ンさま、他の取引先やクライアン
 トとの営業業務を担当。副社長
 は設計・製造、資材管理、購買
 などの現場統括と地元企業さん
 とのパイプ役を担っています。
 当社のキャッチフレーズ「便
 利をつくる。ひとつから考える」

―良いものを創るために大切
 なことかもしれません。
伊藤 創業以来、困りごとを
 ゼロから考える。そのための設
 計力や提案力を磨き、顧客満足
 度を追求する姿勢を貫いてきま
 した。スケールの大小に関わら

―来年にはその成果が形に
 なる楽しみもあります。
伊藤 これまで好調だった流れが
 一変してしまいました。
伊藤 どの業界も同じ状況と
 はいえ、こうした外的要因には
 無力であることを痛感しました。
 振り返るところ数年、当社の顧
 客販路先が自動車業界関連ばか
 り意識していたことに気づきま
 した。これまでの偏重な顧客パ
 ランスを改善して、例えば食品
 業界や物流、製造、小売、サー
 ビス業界などの対象分野を10
 区分し、それぞれ10%のシェ
 アを確立することで各業界の景
 況感に左右されないリスクマネ
 ジメントを図る。そして、安定



宮ノ陣新産業団地内にある本社事務所、工場



昨年12月から2カ月間、福岡市科学館で行われた人工星の展示会に参加。前列左が伊藤副社長

で興味をもっていただければと考えています。

— 新型コロナウイルス対策も重要ですね。

伊藤 当社はコロナ禍が表面化する前から書類の電子化や製作面のデータ管理・共有化を図っていましたので、昨年4月最初の緊急事態宣言が発令され、リモートワークに移行した時もスムーズに対応できました。コロナを予測していたわけではなかったのですが、結果的にデジタルトランスフォーメーションの導入が功を奏し、さまざまな場面でオンライン化を促進できました。特に、ビジネス

チャットを利用したタスク管理や取引先・顧客とのオンラインミーティング、社内でも部署間

のウェブミーティングが活発化。作業効率も向上しており、良い成果が出ています。

宇宙産業ビジネスを主要分野に位置付け

— 宇宙産業ビジネスへの参画も企業成長の大きな柱となりそうですね。

ダー衛星の開発・運用は世界でも数社しか達成できていないんです。e-SETTに加盟した当時はこんなに早く結果が出るとは思いませんでした。QPS

伊藤 筑後地区の中小製造メーカーを中心に小型人工衛星の開発に挑戦するグループ「e-SETT（円陣スペースエンジン・ニアリングチーム）」（加盟企業11社）に参画し、今年8月で10周年を迎えます。2017年10月から九州・福岡発の宇宙ベンチャー「株QPS研究所」（福岡市、大西俊輔社長）さんが取り組む小型SAR（合成開口レーダー）衛星開発にも携わらせていただき、構造全体やアンテナ展開などの宇宙空間での機械的な動作部分の設計・組立を担当。19年12月に1号機「イザナギ」、今年1月には2号機「イザナミ」が続けて打ち上げ成功した時の興奮は今も鮮明に覚えています。

て以降、急激に進展しました。今や、当社にとって宇宙産業は将来の企業成長を担う主要分野の1つとして大きな期待を寄せています。

— スケールが大きい市場になりますね。

実は、小型（100kg級）レー

伊藤 QPS研究所さんから設計・組立担当としてご信頼をいただいていることが大きな自信となっています。このプロジェクトは2025年までに計36機の小型SAR衛星を打ち上げて地球のほぼ全体をカバーし、夜間や悪天候でも地表を観測できる最新データを平均10分ごとに更新することを目指しています。ご縁をいただいたこ

とに感謝し、我々も品質と精度向上に努めていきます。

— 今後の事業展開について。

伊藤 当社の強みである搬送システムの設計・施工・製造、アフターサービスを自社一貫体制で行い、各部門が連携・協調し工期短縮の実現を目指す生産体制「コンカレットエンジニアリング」を徹底し、差別化を図ります。今年度から3カ年中期経営計画を策定しており、今期は売上高7億円までの回復を目指し、2023年度には1億円を目標にしています。

オガワ機工(株)

社名	〒839-0804 久留米市宮ノ陣町若松1-20
TEL	0942-31-1378 [FAX] 0942-31-1380
設立	1976 (昭和51)年5月 [創業] 1976 (昭和51)年5月
資本金	2,000万円
銀行	福岡善導寺 北九州久留米 他
役員	(会)伊藤博介 (社)伊藤秀典 (副)伊藤慎二
事業	コンペヤ・省力機器の製造
仕入	ユアサ商事 日本機材 ダイドー オークラ輸送機 他
販売	ブリヂストン プリヂストンプラントエンジニアリング 椿本興業
取扱構成	オカムラ 他
先	コンペヤ30% 省力機器50% 他20%
(工場) 本社同所	
(業績)	売上高(千円) 経常利益(千円) 配当(%) 従業員
2018年2月	913,000 31,339 - 25
2019年2月	1,001,000 28,454 - 26
2020年2月	1,060,000 49,640 - 28
2021年2月	452,911 △89,529 - 29

※ 弊誌別冊「福岡の会社情報」データベースより